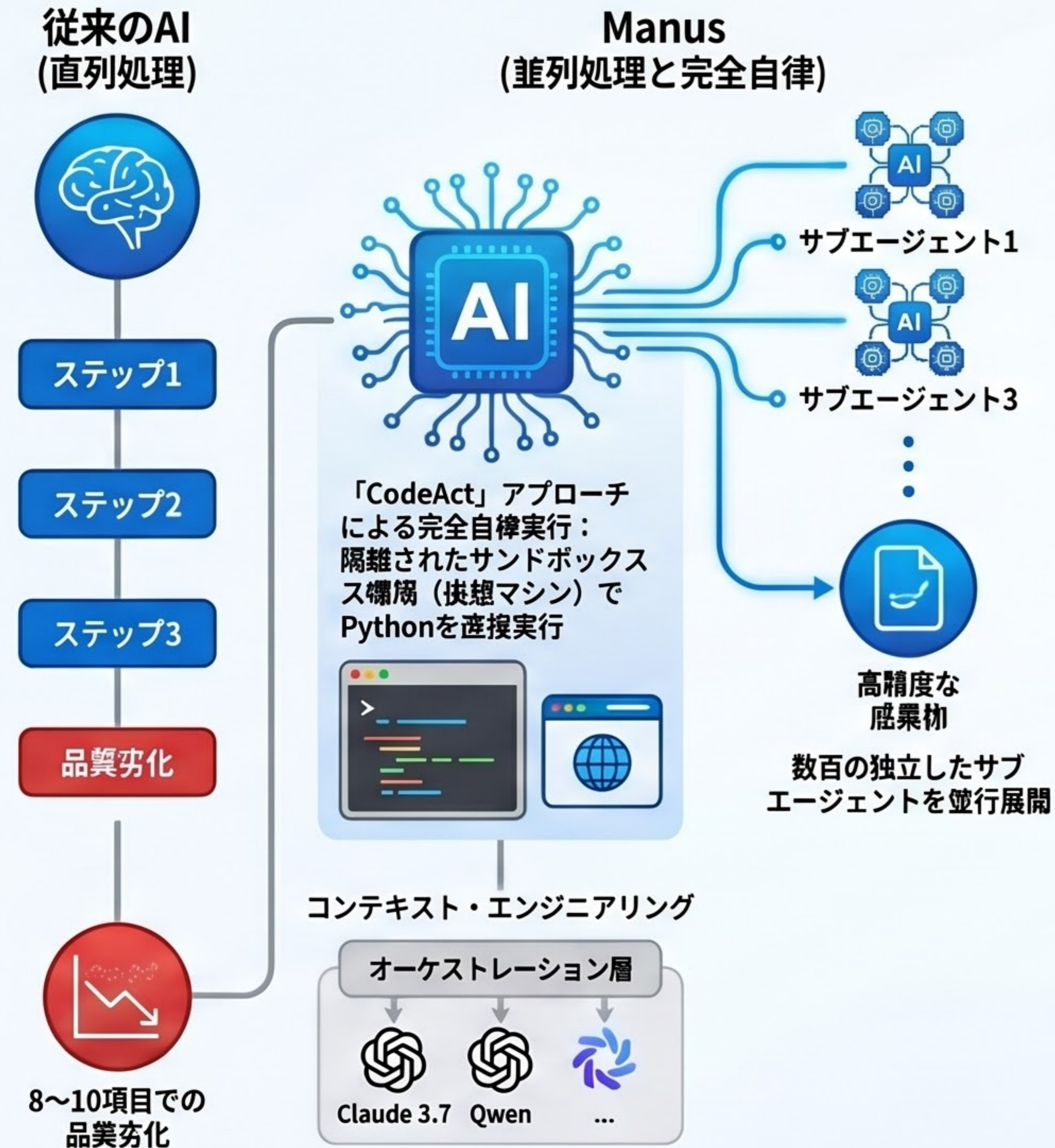


汎用AIエージェント「Manus」：技術的特異性と地政学的衝突の全貌

技術的革新：既存のAIを超越するアーキテクチャ



実利用シナリオと市場の評価

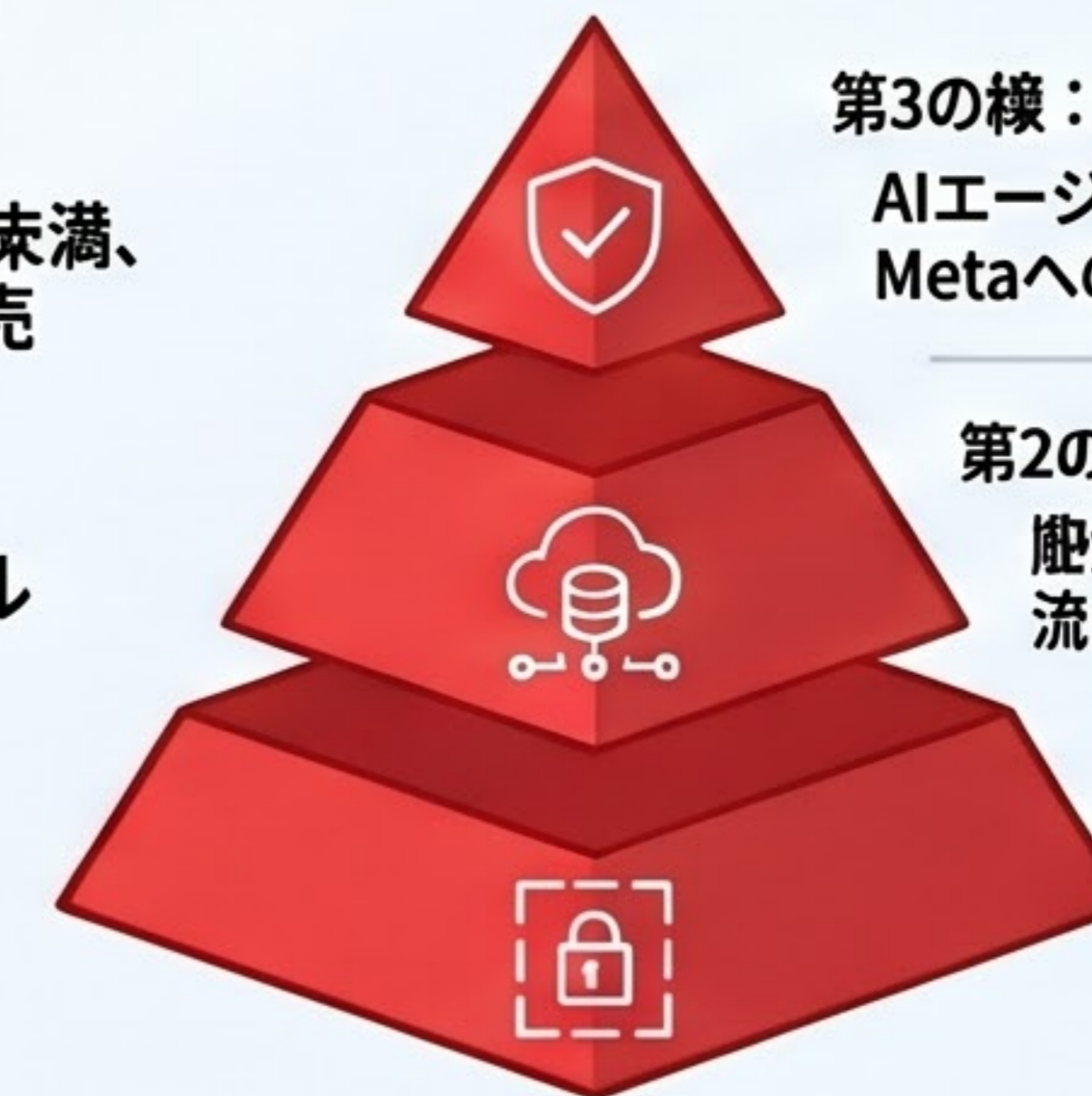
ベンチマークによる性能比較

機能 / 指標	Manus AI	OpenAI Operator	Claude Computer Use
アーキテクチャ	マルチエージェント並列	単一エージェント	単一エージェント
実行環境	クラウド上Sandbox	独自の仮想ブラウザ	ローカルデスクトップ
コード自律実行	対応 (Python完全実行)	制限あり	制限あり
GAIAスコア	SOTA (最高水準)	Manusを下回る	Manusを下回る

- フルスタック・アプリの自律開発
自然言語の指示から本番稼働可能なコードを数時間で構築

地政学的衝突：中国政府が示した「3つのレッドライン」

- 極めて高い希少性と「招待制」の壁
月額79ドル、アクセス権は1%未満、招待コードが1万ドル以上で転売
- 日本のユーザーによるリアルリアな指備
圧倒的な自動化能力を評価する一方、ハルシネーション、トークン消費、処理時間が課題



第3の線：国家安全保障 (戦略的インフラ)

AIエージェントは次世代の「重要インフラ」、Metaへの支配権移転は受け入れがたい脅威

第2の線：データ主権 (147兆トークンの処理)

膨大な中国ユーザーのデータや操作ログの流出は、厳格なデータ輸出規制に抵触

第1の線：技術的管轄権 (起源の重視)

拠点がシンガポールであっても、中核技術が中国国内開発なら「技術密輸」とみなされる

タイムライン：Manusを巡る覇権争いの軌跡 (2022-2026)

- 2022年10月：Butterfly Effect創業 (北京で設立)
- 2025年6-7月：「シンガポール・ウォッシング」の断行 (本社移転、脱中国化)
- 2025年12月20日：Metaによる召喚員限発表 (20億~30億ドル規模、Meta AIへ統合)
- 2026年4月27日：NDRCによる真偽差止め命令 (国家安全保障を理由に契約閉鎖、ディール破棄)